

【一般口演8】 第28席**『大成論』について**

京都 寺川 華奈

『(医方) 大成論』は、いうまでもなく明・熊宗立の著作である『医書大全』から、その医論のみを抜抄して日本で編集された書物である。その成立が、中国医学の日本における受容を示すことや、その受容に大いに貢献した曲直瀬玄朔、吉田意安といった人物が、その注解に関わっていることから、その重要性がうかがわれる。またその版種や注解者の多さから、江戸時代前半期によく読まれたテキストであることは明らかであるが、にもかかわらず、それが読まれた期間、その影響の詳細などの総括的な研究は、未だ見受けられないように思われる。

本発表はその刊行、及び注解書の執筆と刊行の全状況を掌握することを通じて、『大成論』成立の意味や江戸時代の医学におけるその意義を検討するものである。